放課後子ども教室

自治体名

岩手県住田町

学校数

小学校2校　中学校2校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

町外での被災により12名が犠牲となり、1名が行方不明になっている。住宅被害は31件、道路被害は56件にのぼる。隣接市から多くの児童生徒が転入し、町内の仮設住宅等からの通学を余儀なくされている。　仮設住宅数93戸。

＜取組名＞　『公民館での放課後子ども教室』

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
	1	―	200 回	下有住基幹集落センター、上有住地区公民館

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
	○	○	○		（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

＜取組の内容を具体的に記載＞

地域の方々が、公民館等を会場として、放課後の子どもたちの居場所と確保しつつ、下記のような学習支援や体験活動を実施した。

(1) 学びの教室　宿題、読書、学習プリント等の支援
(2) 体験教室　竹楽器づくり、人形劇観賞、夕涼み会、清掃ボランティア、長～いのり巻き作り、もちつき、みずき団子作り、森の積み木広場
(3) 交流体験　子育てサークルとの交流、セーブザチルドレンとの交流、愛知学院大学との交流、いわてGINGA-NETとの交流
(4) スポーツ体験　スポーツチャンバラ教室・大会、クッブ大会、ボッチャ大会
(5) 自然体験　あすなろ山荘散策
(6) 視聴覚教室　ビデオ・DVDの上映

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

仮設住宅が設置されたことにより、本町は被災した方と被災していない方が混在する状態となった。仮設住宅に入居した子どもたちは、震災による影響や慣れない土地での生活によるストレスなどからか、子ども教室においてしばしば言動が粗暴になる場面がみられ、安全管理員が対応に苦慮したり、被災していない地元の方との間に軋轢が生じ、地元の利用者が減少したりする状況も見られた。被災した子どもたちも被災していない子どもたちも安心して過ごすことができる居場所の確保が必要である。

◇住民等からの要望・必要な取組

少子化に係る課題解決のため、子育てしやすい環境を町全体で整えること、また、子どものころから地域と関わることで郷土愛を育み、住田町のこれからを担う人材を育む必要がある。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・町教育委員会　～　実施主体としての企画・運営

・公民館関係者　～　安全管理員とともに子どもたちに対する学習支援や遊びの提供に取り組んだ。

・学校　～　活動内容の依頼、協力・連携、児童生徒への周知

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・教育委員会職員と子ども教室の安全管理委員が月１回打合せをする機会（合同会議）を設け、子ども教室の運営について情報共有を図った。

・定期的に臨床心理士に子ども教室に入ってもらい、子どもたちの様子を見ていただくとともに、安全管理員のサポート体制の充実も図った。

・「乱暴な言葉は使わない」など、子ども教室を利用する上でのルールを再確認し、子どもたちだけではなく保護者へも周知した。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・放課後子ども教室が安全安心な子どもたちの居場所だということが定着しつつあり、利用者が増加している。

・放課後子ども教室の開催場所を公民館とすることで、安全管理員だけでなく、公民館職員や周辺の住民等、地域全体で子どもたちを見守る体制が整いつつある。

・合同会議の実施により、子ども教室の状況を確認し、改善しながら事業を展開することができた。

・臨床心理士が安全管理員をサポートする体制が確立し、きめ細かい運営ができた。

・子ども教室のルールを再確認、周知、徹底し、誰もが気持ちよく利用できる居場所をめざしたことで、地元の利用者も増えてきている。

◇課題や今後の展望

・合同会議や臨床心理士によるサポート等を継続し、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所の確保を続ける。

・今まで以上に、地域住民と子どもたちが関わりをもてるような事業を工夫していきたい。